

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100246		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム あやめ (2階)		
所在地	〒020-0826 盛岡市神子田町8-27		
自己評価作成日	令和6年11月5日	評価結果市町村受理日	令和7年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様の人となりをお話や生活の中でつかみ、職員間で共有することで一人ひとりに合った対応を取れるように心がけている。また、毎日の様子を観察することに加え、1日2回体温測定を行い、体調の変化に即座に気付けるようにしており、変化のある時には都度主治医への相談や受診対応を行っている。感染症予防のため、ホーム内の換気や清掃、ハンドジェルでの飲食前の消毒やマスクの着用などを徹底している。外出機会は少なくなったが、お花見ドライブや紅葉ドライブ、施設内での季節の行事を行うことで季節を感じていただけるように取り組んでいる。皆様が笑顔で過ごせるグループホームになるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

盛岡バイパス南大橋交差点近くの住宅地に位置する2ユニットのグループホームである。市内5カ所でグループホームを運営する経営母体は環境衛生、ビル管理、保安警備等を経営する株式会社であり、清潔で住み心地のいい施設・設備を整えている。介護度3以下の利用者が多く、職員は、一人ひとりの尊厳を守りながら自分のペースで生活出来るよう支援しており、利用者は日々伸び伸びと自分の時間を過ごしている。この1月に職員と利用者がコロナに感染し、1ヵ月位外出を制限していたが、現在は元通りの生活に戻っている。食事は5グループホーム共通の年間分の献立があり、これをもとに職員が交代で気持ちを込めて準備し、季節のものも採り入れながらバランスのいい食事を提供しており、利用者から好評を得ている。職員も一緒に食卓を囲み、和やかで楽しい食事になっている。事業所では、もともと町内会、子ども会等、地域との交流が活発に行われていたが、コロナ禍以後、交流が途絶えて久しく、コロナ禍の収束方向を見極めながら交流を回復したいとしており、復活が待たれる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年3月10日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念を掲示いつでも確認できるようにしている。ミーティングの際に確認したり日々の中でも表情や仕草からも気持ちを汲み取るようにしている。	法人が運営する五つのグループホーム共通の基本理念をホールなどに掲示するとともに、朝のユニット合同ミーティングを始め、日々の業務の中で職員相互に確認している。コロナ流行前には、ホームでの生活目標を3ヵ月毎に定め、日々の生活の励みとしてきたが、現在は止めている。	基本理念をもとに、利用者と職員が一緒に取り組みができ、また、一人ひとりのケアにも反映できる具体的な「生活目標」の設定とその実践の復活を期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて交流の輪を広げていたが、コロナウィルスで直接のふれあいが減少している。感染状況に応じて増やしていきたい。	運営推進会議委員を通じ、町内会、消防分署、交番等の地域の社会資源との交流に努めている。また、散歩で近隣の方々との触れ合いの機会を大切にしている。コロナ禍の収束方向を見極めながら、町内会を始めとする地域の行事への参加など、地域との交流の場を再び広げたいとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進協議会の中で話題にすることで委員への情報提供をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の開催に合わせ活動状況を報告している。現状や行事の報告が主ではあるが、利用者の参加もあり委員からも多くのご意見を頂いている。	町内会長及び区長、民生児童委員、地権者、利用者家族等で構成され、隔月で開催している。利用者の生活の様子、行事等の活動、事故・ヒヤリハットの内容、身体拘束廃止委員会の取り組みなどを報告し、質疑応答が活発に行われている。管理者は、地域貢献をテーマに話し合うことや職員にも交代で出席してもらうようにしたいとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設時から適宜情報提供や指導を受けている。介護認定や生活保護受給者の受け入れ等やコロナウィルス関連について担当者と連絡を取り合い支援している。	生活保護受給や成年後見制度、日常生活支援事業を利用している利用者があり、市担当課や関係機関と必要な連携、協力を図っている。介護認定更新手続きや事故報告の際は、市の担当者を訪問し、ホームの状況を説明しており、円滑な関係を築いている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設立し2ヶ月に1度個別に検討、身体的・言葉の虐待にならないよう話し合いながら実践している。年2回以上の勉強会を行ない、理解を深め職員の意識を拘束しないケアに向けている。	両ユニットの管理者と職員各1名の持ち回りで構成する「身体拘束廃止委員会」を2ヵ月毎に開催し、身体拘束のないケアの実践に向けた話し合いを行い、検討事例等を運営推進会議で説明し、意見をいただいている。また、年複数回、ユニット合同で勉強会を実施し、身体拘束及び行動抑制の事例や不適切ケアの実例等を学習している。止むを得ず身体拘束を行う必要のある事案が発生した場合には、委員会において拘束を必要とする理由、状況、対応方法、期間等を検討し、家族と話し合いのうえで実施することとしているが、現在まで発生事例はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で理解を深め、職員同士で声を掛けあえる環境作りに努めている。虐待に至る前に防止できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護制度を利用している利用者が数名おり担当者が市役所や社会福祉協議会と連絡を取り合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に際にはできるだけご本人にも見学して頂いている。契約の際には十分に説明をし納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望方法や聞き入れ先などは重要事項説明書に記載しており、契約時に説明し活用していただいている。また、面会時・電話等で普段の様子を伝えると共に要望を伺うようにしている。意見・要望は聞き入れ反映させている。	日々の生活の中での利用者の要望等には、その都度応えるよう努めている。家族には「広報あやめ」(年2回発行)や利用者個々に「〇〇様便り」(年2回発行)により、利用者の生活の様子を伝えている。家族からは、発行回数を増やして欲しいとの要望があり、検討したいとしている。コロナ禍のため、ここ数年は敬老会に家族を招待できずにいることから、家族にメッセージを書いてもらい、当日、利用者に渡して喜んでもらっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時に限らず普段からコミュニケーションを取り意見や考えを聞き取るようにしている。申し送りノートを活用している。各係の活動については職員がアイディアを出し合い話し合いながら進めるようにしている。	両ユニットの管理者は、ユニット会議やユニット毎の打ち合わせ会議の際に、職員の意見や提案を聴取している。日々の申し送りノートにも提案事項を記入してもらうようにしている。広報、防災、環境整備、リスクマネジメントの各委員会は職員で構成しており、これら委員会の活動を通じて提案が出され、実行に移されることも多い。両ユニット管理者は一人ひとりの職員との個別面談の機会には特に設けていないが、日常的に職員の勤務に関する要望等に応えながら働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会に職員が所属するとともに担当を持つことにより役割と責任を持って働けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニット会議の際に勉強会を取り入れたり、経験や技術に合った研修に参加できるように配慮し、職員の技術・知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に参加したり同系列のGHに意見を聞くなどして自分たちの介護に活かせるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報を読み、入居後も話を伺ったり、また、本人がうまく伝えられない事もあるので色々な場面での反応や気持ちを察しながら職員間で情報共有・話し合いをし、安心して生活して頂けるよう心掛けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み段階から話をよく聞くように努めている。面会に来られた際も会話をして話しやすい環境を作るように努めている。入居されてからも様子を報告し、お互いの情報を交換し素早い対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	言動・表情をよく観察し職員間で話し合いを行いより良いサービスを提供できるように努めている。必要があれば他サービスの情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの出来る事をして頂きながら共同生活を楽しんでいただけるよう配慮している。食事の後片付け・創作活動等出来る事をして頂き、介助しすぎない様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍に付き行事参加は自粛して頂いているが、敬老会時に各ご家族よりお母様に向けた、メッセージを頂き喜ばれた。面会時には状況に応じて、玄関先のテーブルスペースやガラス越しで元気な様子を見て談話されている。日々の生活状況を知らせるなどして今の状態を把握してもらう様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況に応じて家族や友人の面会を行い、園庭の散策や、行事による外出ドライブで馴染みの風景を楽しんでもらった。広報や個人便りを発行しご家族に園での様子をお伝えした。	知人や友人から電話等の連絡が来る利用者が3人程いる。利用者との普段の会話で登場する人について、家族に確認して繋がりを付けたこともある。災害避難訓練で避難場所まで移動した際に、馴染みの場所や懐かしい場所巡りを行った。1階と2階の利用者同士は、クリスマス会等合同の行事で交流していたが、コロナ以降、合同の行事は控えているため、最近では1階の利用者が景色を見るために2階に上がった際に挨拶する程度になっている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者ができるレクを提供したり、利用者同士が互いに助け合えるよう会話の橋渡しや場面作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族やご本人から相談があった場合、いつでも関連機関との連携を取り対応支援できる体制にある。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを取りながら思いや感じていることなどを聞き取れるように努めている。	自分の希望を意思表示する利用者が少なくなってきた。基本理念の「いつもあなたのそばにいて、心の声を聞いています」を具現化するため、日々の行動、話の内容、表情などから思いや意向を把握するようにしており、何気なく発する言葉にも注目し、そこから会話を発展させ、本人の思いにたどり着くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を活かし、利用者が過ごしやすい環境で生活出来るように努めている。適宜必要際には家族様にご意見を頂戴し参考にさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中で変化に気を付け表情・言動・行動からも思いや気持ちを感じ取るように努めている。利用者様の表情等に変化があればすぐ職員間で情報を共有し実践に繋げている。		

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の言動・仕草・会話などを記録に残し、記録を基に担当者がモニタリングを作成しケアプランを作成している。本人や家族の要望も取り入れる様にしている。途中、変化があった時にはご家族に都度確認を取って、了承を得た上で対応をしている。	利用開始時に、関係資料によりアセスメントを行い、暫定のケアプランを作成し、本人の状況やプランの妥当性を確認のうえ、本プランとしている。以後、3ヵ月毎にケアチェック表と担当者によるモニタリングをもとに計画作成担当者が短期・長期のケアプランの評価、見直しを行っている。家族の要望や利用者の状況変化がある場合には、必要に応じ、主治医や看護師から意見や助言を得ている。	専ら計画作成担当者と担当職員との間でモニタリングが行われており、ユニット(チーム)全体のカンファレンスによるケアプランの評価や見直しが行われることが望まれます。その際には、2階の管理者が両ユニットの計画作成担当者を兼務していることから、負担が大きいに感じられ、計画作成担当者のユニット毎の配置についても検討されることが期待されます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の言動・仕草・会話などを記録に残し、申し送りノートなども活用しながら情報共有や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々職員間で意見交換しながら一人ひとりに今何が必要かを考え、事業所のみにとどまらない柔軟な支援を行えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員の方に利用者が普段どのように過ごしているか情報を提供したり、施設でどのようなイベントを行っているかを報告する事で現状を知って頂いている。家族に了承を頂き、事前に警察に情報提供し安全に生活出来るよう配慮している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き家族と協力しながら受診支援をしている。家族が受診をする際は日々の状況をお伝えしている。突発的な対応が必要な時には家族に報告の上、かかりつけ医にアドバイスを頂きながら相応な医療機関を受診している。	入居前の主治医に家族同伴で継続通院することが難しいケースが多く、3分の2は家族の同意によりホームの協力医療機関に変更している。協力医は月1回の訪問診療により対応してくれる。皮膚科、整形外科、精神科などの特定科は、職員同行で受診している。歯科も月1回の訪問歯科診療を受けている。協力医には訪問診療前日に利用者の健康状態を看護師を通じて伝えており、円滑な受診ができています。	

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問診療時に様子や気付きを伝えている。突発的な対応が必要な時には家族に報告の上、かかりつけ医にアドバイスを頂いたり受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供や退院時の連携のみではなく、入院時の洗濯などを行っている。家族に状況を伺うなどして現状把握に努めている。病院の看護師・相談員と相談しながら早期退院に向けて取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについての指針は説明しているが現段階では医療連携などの整備が整っていない事を説明し理解を頂いている。利用者の状態の変化があるごとに家族・主治医と相談しながら取り組んでいる。	利用開始時に、「重度化・看取り指針」により、重度化については、食事が摂れなくなった段階や医療処置が必要になった段階で他の介護施設への移転或いは医療機関への入院を調整すること、看取りについては、医療・看護連携の体制が整っていないため限界があり、その時点で相談しながら、入院等、適切な対応が可能になるよう協力、支援を行うことを説明し、本人、家族の同意を得ている。協力医や訪問看護師との連携体制の整備に加え、職員のターミナルケアの研修に力を入れている。	看取り指針は、看取り介護を行うことを前提として定められており、本人、家族に説明する際には、看取りが難しい現状と矛盾が生じないように丁寧に説明することが望まれます。また、今後に向け、協力医や訪問看護との連携体制の整備に加え、職員に対するターミナルケアや看取りスキルの研修に力を入れることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備えて応急手当講習を受講しいつでも対応できるようにしている。外部からの講師を招き行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防立ち会いでの避難訓練をしている。水害時速やかに避難できるように避難時の荷物や備蓄品も準備している。年1回職員、利用者で実際に避難時の荷物を持ち避難経路通りに訓練を行っている。	年2回(6月、11月)消防署立ち合いによる火災避難訓練を実施する他、北上川に隣接していることから洪水想定のある自然災害避難訓練を実施(7月)している。5月の火災避難訓練には運営推進会議のメンバーにも参加いただいた。9月1日の防災の日には、市のシェイクアウト訓練に参加し、避難所の中学校まで利用者に避難してもらった。お米、水、缶詰等の保存食品を備蓄し、自家発電装置(月1回点検)も用意している。	利用者参加による夜間の避難訓練は難しいところですが、電気が切れた夜間の2階からの避難について、非常階段の使用の可否など、想定される課題を設定し、職員間でシミュレーションを行い、解決策を検討することが望まれます。また、定期的な訓練に加え、リハビリも兼ねて玄関前まで避難する「ミニ避難訓練」を毎月定例化するなど、訓練の取り組み方法を工夫することも期待されます。

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重した声掛けを心掛けています。声がけがきつくなってしまう時はお互いに声を掛け合っている。呼び捨てや「ちゃん」付けで呼んだりする事の無いように気を付けている。	職員は利用者の尊厳を傷つけないよう一人ひとりに合わせた声がけや話の仕方を工夫している。また、本人が恥ずかしいと思うこと、プライバシーに触れることを他の人の前で話したり、突発的な行動に対し、大声で制止したり指示的な言動を取ることをないよう留意しながら支援に当たっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今の状況を説明しどのようにしたいかを伺っている。耳の遠い方には筆談する等状況をお伝えし、選ぶ機会を損なわないようにしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで生活できるよう希望に沿って支援している。入浴などは行事やその日の都合で職員に合わせてもらう事もあるが生活のペースを考慮し工夫している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたものを着ていないか、季節に合った物を着ているか等配慮しているが、利用者が何度も着替えたり、着足したりして出来ない事もある。定期的に爪のケアをしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲が増すような盛り付けにしよう配慮している。旬の食材を頂いた時など季節を味わって頂いている。	法人から示される年間分のモデル献立を基本に、食材別に契約した業者に発注し、日曜と水曜を除き、配達してもらっている。昼食、夕食はユニット毎に当番職員が調理を行い、朝食はみそ汁や一品の追加等、両ユニットで協力しながら準備している。行事食の時は適宜献立を入れ替え、また季節を感じさせる食材を加えるなど、食事を楽しんでもらえるよう定番の献立に工夫を加えている。自分で食事できる人が多く、職員も一緒に陶磁器の食器で和やかに食卓を囲む。後始末などのお手伝いの出来る人が少なくなってきたり、両ユニットで2、3人となっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて主食量を決め食事形態にも気を付けている。夜間の水分摂取にも力を入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。一人ひとりの状況によって介助している。義歯使用の方は夜間洗浄液に浸け置きしている。定期的に訪問歯科を利用し口腔内の保持につとめている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排尿間隔に合わせて声掛けをしている。場所の分からない方、トイレ内で転倒リスクのある方・一人で排泄できない方等、一人ひとり支援している。	全介助の必要な人がユニット合わせて4人いるが、昼間は、排泄チェック表による声がけと誘導により全員がトイレで排泄できている。布パンツ使用で自立している人は2階に3人いる。夜間は、おむつ使用の人1人を除き、殆どの方が自分で起きてトイレに立っている。離床センサー利用の人が1階に3人いる。サ高住から入居した人に改善が見られた例もあり、少しでも現状が改善されるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便の有無を確認している。根菜類や野菜を取り入れた食事やヤクルト・ヨーグルト・牛乳なども提供している。水分摂取や歩行運動にも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間の概念がある利用者には希望時間を伺っている。脱衣所・浴室内の気温、お湯の温度・明るさに留意し、快適な時間を過ごして頂くよう心掛けている。拒否のある方には時間や日にちをずらしたり、声掛けやタイミングを工夫している。無理強いとならない様に工夫している。	日曜日以外の午後に入浴できるように対応している。利用者は週に2、3回、1回あたり20～30分の入浴となっている。車椅子利用の3人については、本人も職員も過度の負担にならないよう入浴の順番や組み合わせを工夫している。体洗いや着脱の手伝い、見守りが主で、職員はおしゃべりを通じて思いや希望を確認出来る時間になっている。利用者は歌を唄ったり、携帯で昭和歌謡を聴いたり、リラックスしながら入浴を楽しんでいる。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	精神が安定した状態で入眠できるよう声掛けをしている。寝具・パジャマを調整して気温の変化に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の下決められた用法・用量を守って服薬している。お薬説明書で副作用を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなテレビ番組を見たり手作業、習字、カラオケを活用して楽しんでもらっている。プランターに野菜作りをし、剪定や水やり、収穫をして新鮮野菜を食して楽しんだ。得意分野で活躍してもらい達成感を味わってもらった。季節ごとの行事を企画し参加した。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自らの外出希望は少なく把握は難しいが、天気の良い日はなるべく外に出る様にしている。加えてお花見ドライブや・紅葉ドライブなどで季節の移り変わりを全員に感じて頂いた。	「年間活動計画」に四季のドライブを掲げ、4月にお花見、10月には紅葉狩りを楽しんだ。11月に「リンゴ狩り」も計画したが、利用者の体調等で実施できなかった。天気のよい日は、少人数での近隣散歩や市内のミニドライブ、玄関前のソファでの外気浴等を行っている。コロナ禍収束の動向を見ながら、暖かくなってきたら、できるだけ外に出る機会を増やしていきたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持はしていない。必要な物がある時にはご家族に用意してもらったり、職員が代わりに購入している。理解できる利用者には、都度報告して共有している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に届く家族からの手紙やご近所さんからの電話で会話を楽しんだりしている。一人の利用者は毎日家族へ電話をかけており、その支援をしている。年末には家族に向けて年賀状を送っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム あやめ (2階)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを工夫している。音や匂い・明るさ・風などについて配慮し過度な刺激とならないように配慮している。整理整頓や清掃に気を付け住みやすいよう工夫している。行事の際の写真を掲示し季節をその時のみならず感じて頂いている。	ベージュ系の床やアイボリーの壁クロスで明るく落ち着いたホールに2、3人が座れるテーブルが5卓用意され、利用者は自分の席でゆっくりと過ごしている。エアコン、パネルヒーター、空気清浄機、加湿器等が整備され、掃除も行き届き、清潔感のある共用空間になっている。ホールに洗濯物の整理が出来る3畳程の畳スペースや筋力低下防止のための踏み台が配置されており、効果的に活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間に腰掛ける事が出来、気の合う仲間と談笑することが出来る。普段多くの時間いる食席は利用者同士気の合う方・テレビ鑑賞しやすい席順などに配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	作製した塗り絵を掲示したり、馴染みの写真やぬいぐるみ・ソファなどを置き寛いで過ごせる空間となっている。	電動ベッド、クローゼット、チェストが備え付けであり、暖房はパネルヒーターになっている。利用者は、ベッドの位置など好みに合わせレイアウトを変更してもらい、自分の作品、家族写真、ぬいぐるみ等を置いて、安心してくつろげる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースには転倒を防ぐため障害物は置かない。トイレの表示や居室に名前表示・写真等一人ひとりの能力を活かし行きたい場所へ行けるよう支援している。		